

第4回 日本ツメガエル研究集会
(第43回日本発生生物学会年会のサテライトワークショップとして開催)

開催日時 2010年6月20日 午後3時から6時
開催場所 京大会館 Room 210
オーガナイザー 荻野 肇 (奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科)
福井彰雅 (北海道大学大学院先端生命科学研究院先端融合科学部門)

プログラム

- 15:00-15:15 The integrated regulation of *Xenopus cerberus* by transcription factors downstream of Nodal/Wnt/ BMP
Nodal、Wnt、BMP の下流転写因子による *Xenopus cerberus* の統合的な発現制御機構
Norihiro Sudou (Lab.of Mol.Biol., Dept.of Biol.Scis., Grad.Sch.of Sci., Univ.of Tokyo)
- 15:15-15:30 TOR signal determines anteroposterior positional value of *Xenopus* embryogenesis
TOR シグナルはツメガエルの胚発生において前後方の位置価を調節する
Yuki Moriyama (Graduate school of science and technology, Shizuoka University)
- 15:30-15:45 A mechanism coordinating the establishment of the dorsal-ventral and anterior-posterior axes during early *Xenopus* embryogenesis
胚発生 初期に背腹と頭尾のパターン形成が調和するしくみ
Kimiko Takebayashi-Suzuki (Inst.Amphibian Biol., Hiroshima Univ.Grad.Sch.Sci.)
- 15:45-16:00 Functional analysis of epigenetic regulators, Ezh2 and Jmjd3, in *Xenopus* embryonic development
Akane Kawaguchi (NAIST)
- 16:00-16:15 Function of endotelin-3 and endothelin receptor B2 in *Xenopus laevis* melanophore migration
アフリカツメガエルのメラノプラスト移動におけるエンドセリンシグナルの役割
Akiha Nishihara-Kawasaki (Dept. Dev. Biol. and Neurosci. Graduate School of Life Sci. Tohoku Univ.)
- 16:15-16:30 Analysis of *Xenopus* CXCR7 during gastrulation
Keita Masuda (Transdisciplinary Life Science, Graduate school of Life Science, Hokkaido University)
- 16:30-16:45 The role of PRMT1 in TR mediated transcription in the intestinal remodeling during *Xenopus* metamorphosis
Hiroki Matsuda (National Institutes of Health, Johns Hopkins University School of Medicine)
- 16:45-17:00 A possible reason why both *ourol* and *ouro2* genes are required for tail regression during tadpole metamorphosis
おたまじゃくしの変態時 の尾部退縮になぜオウロ1 とオウロ2 両方の遺伝子が必要なのか
Tomomi Ohsima (Dept. Biol., Niigata Univ.)
- 17:00-17:15 Analysis of the mechanisms that determine tail regenerative ability in *Xenopus laevis* tadpoles

アフリカツメガエル幼生における尾の再生能力規定要因の解析

Yuko Naora (Dept. Biol. Sci., Grad. Sch. Sci., Univ. Tokyo)

17:15-17:30 Different mechanisms in initiation of limb regeneration between larval and adult *Xenopus*
幼生期と成体期のアフリカツメガエルでみられる四肢再生における異なる開始機構
Hitoshi Yokoyama (Dept. of Dev. Biol., Grad. School of Life Sci., Tohoku Univ.)

17:30-17:45 Transplantation of germ plasm in *Xenopus* induces primordial germ cell at animal hemisphere.

Xenopus の生殖細胞質移植による動物半球での始原生殖細胞の誘導

Haru Tada (Grad.Sch.Life Sci,Univ.Hyogo)

17:45-18:00 *Xenopus laevis* ゲノム解読プロジェクトの進行状況についての報告

Masanori Taira (Lab.of Mol.Biol., Dept.of Biol.Scis., Grad.Sch.of Sci., Univ.of Tokyo)

今回のツメガエル研究集会は、京都において第43回日本発生生物学会年会のサテライトワークショップの1つとして開催した。サテライトワークショップの趣旨に基づき、学生の発表を中心として演題の選考をおこなったが、結果として原腸陥入から変態まで幅広い分野をカバーするものとなった。そのためか、ワークショップ参加者は78名前後に達し、会場の席がほぼ全て埋まる状況となった。各講演に対する質疑も活発で、非常に盛況であったといえる。

終わりの言葉に代えて、東京大学の平良眞規准教授から *Xenopus laevis* ゲノム・プロジェクト (XGP) 推進委員会の活動報告があった。現在、BAC ライブラリーの作製とシーケンシングの申請準備がおこなわれており、もしこの申請が採択されればすぐにシーケンス開始されること、シーケンスの終了後は、私達 *Xenopus* コミュニティーが FISH によって scaffold を染色体にマップすること、及びプログラムが提示する遺伝子モデルに対してアノテーションをおこなうこと等を確認した。

ワークショップの後には引き続いて XCIJ 総会が開催された。広島大学の矢尾板芳郎教授から、ナショナルバイオリソースによる *Xenopus tropicalis* の配布について課金制度が導入されること、東京大学の浅島研究室に設置されているもう1つのナショナルバイオリソース拠点が産業技術総合研究所に移転する予定であること等が報告され、参加者全体の下承を得た。

これらの集会の後、京都四条周辺にて懇親会を開いたところ、45名ほどが参加し、楽しい議論の場が夜遅くまで続いた。